

メスアカミドリシジミの斑紋異常個体

清水 哲哉

筆者は、秋田県にて顕著な斑紋異常を持つメスアカミドリシジミ *Chrysozephyrus smaragdinus* を撮影したので報告する。



1 ♀ (斑紋異常個体, 写真), 秋田県大館市 芝谷地湿原, 4. VII. 2012

国の天然記念物に指定されている芝谷地湿原の周囲の林縁にて、夕刻、閉翅、開翅の両状態を撮影した。開翅時に見られる前翅表面の橙色紋より、メスアカミドリシジミのメスと同定した。一方、裏面は通常の個体とは著しく異なる斑紋を示している。すなわち、通常は後翅外縁にそって前縁と後縁をつなぐ白条が、本個体では前縁に達せず、途中から中室端短条を囲むループ状に変化している。なお、確認したのは右側のみで、左側の斑紋は不明である。

○参考文献

白水 隆, 2006. 日本産蝶類標準図鑑. 株式会社学習研究社, 336pp.

(Tetsuya SHIMIZU 兵庫県たつの市)

アゲハ♀の吸水行動

清水 哲哉

吸水行動は多くの蝶に見られるが、通常♂のみが行う。筆者は、兵庫県たつの市において、アゲハ *Papilio xuthus* の♀と思われる個体の吸水行動を撮影したので報告する。

観察したのは、2009年8月8日、15時20分ごろ。快晴の非常に暑い日で、実際の気温は不明であるが、神戸市では35℃を記録した。場所は揖保川に架かる甞崎



橋上流の堰の左岸にある広いコンクリートの平面で、隣接する用水路より浸みだした水が、広く浅い水たまりをなしていた。はじめ、アゲハの♂が水たまりの各所で離合集散を繰り返しながら、最大で6頭程度の吸水集団(写真1)を形成していた。そこへ、写真2に示したように、明らかに他の個体と斑紋の異なる個体が飛来し、吸水を開始した。問題の個体は、他の個体に比べて1) 地色の黄色味が強い、2) 黒条が薄く不鮮明、3) 後翅肛角の斑紋に橙色がある、の三点から夏型の♀と考えた。また、この♀は翅の状態から新鮮な個体に見える。吸水中の行動にも♂と♀とでは違いが見られ、♂がすべて30度程度の狭い開度で翅を小刻みに震わせながら吸水するのに対し、♀と思われる個体は吸水中120度以上に大きく翅を開き、翅を震わせることはなかった。吸水と同時に腹端から排水を行うポンピングを行っていたか否かや吸水の継続時間は、記録していない。

♂の吸水行動には一般にミネラル等の栄養分の補給と体温調整の、主に二つの要因が提唱されている。この日は特に気温が高かったことから、この♀は体温調節を目的にしているのかもしれない。

○参考文献

白水 隆, 2006. 日本産蝶類標準図鑑. 株式会社学習研究社, 336pp.

(Tetsuya SHIMIZU 兵庫県たつの市)